

館歌・校章

国士館館歌

作詞 柴田徳次郎
作曲 東儀 鉄笛

一、霧わけ昇る陽を仰ぎ
梢こすえに高き月を浴び
皇国みくにに殉ゆるす大丈夫ますらおの
ここ武蔵野の国士館

二、松陰しょういんの祠しに節せつを磨まし
豪徳こうとくの鐘かね氣きを澄すます
朝あさな夕ゆふなにつく呼吸いきは
富嶽ふがく嵐あらしの天あまの風

三、区々くさく現身うつしみの粗薪あらまきに
大覚だいかくの火かを打ち点ともし
三世さんせい十方じっぽう焼き尽つくしす
至心ししんの焔ほのおあふらばや



国士館の歴史を今に伝える大講堂
(1919年建立・世田谷キャンパス)

校章 全学の総意で決めた「楓」



国士館が麻布こうがい 斧町から、世田谷の松陰祠畔に移ったのは1919(大正8)年。そして、その前年、国士館創設の同人たちは揃って松陰神社に詣でています。激動の幕末期、思想家、教育者として峻烈な生きざまを貫き通した吉田松陰に寄せる彼らの崇敬の念は篤く、新生国士館を松下村塾の系譜を継ぐ学塾に育て上げたいと請い願ったのです。社の境内には大和魂を表す桜樹と、松陰の熱き血潮を彩った楓の古木があります。国士館高等部(現在の大学の前身)建学式の朝、初代館長であった柴田徳次郎は、朝日を受けて真紅に映える楓を見て松陰の赤心に思いを致し、楓を校章にと胸中ひそかに意を決したといえます。1920(大正9)年の春になって柴田館長は、その思いを国士学生会(学生の自治組織)に諮り、学生会もまたこれに賛同し、全学の総意によって、校章は「七生報国の士を象徴する七片の楓葉」と決まったのです。

シンボルマークについて



地球を意味する円弧に歴史と将来への希望を表わすエレメントが交差して、英文表記の「Kokushikan」のイニシャル「K」を象っています。多くの人間が集い、その文化や知識、技術が“活発に交流”し、活気に溢れた国士館となるよう、社会に向かって開かれた学園、オープンでグローバルな学園のイメージを表現しています。カラーは、深紅の楓にも由来し、“情熱”や“喜び”を表すオリジナルカラーの「国士館レッド」です。1997年の創立80周年記念事業の一環として制定されました。